

子供達とともに未来を志向する小児医療

少子化の進む社会に於いて、子供たちの健やかな成長がより一層望まれています。当科では、主に専門的医療を要する小児疾患を対象とし、高度な知識・技術を駆使しつつ、成長発達に考慮した診療を通して、小児医療全体に貢献します。



診療体制

入院では、血液・腫瘍、心臓・循環器、神経、免疫・アレルギー、内分泌・代謝、新生児の各部門の専門医が診療に当たります。長期入院に備え、院内学級・病棟保育・ボランティア活動も充実しています。外来では、上記の専門部門の診療に加え、心理・発達、遺伝療育の診療も行っています。

対象疾患

白血病・悪性リンパ腫・骨軟部腫瘍・脳腫瘍等の小児がん、先天性心疾患・川崎病等の小児循環器疾患、てんかん・発達障害等の神経疾患、先天性代謝異常症、低身長・糖尿病等の内分泌疾患、先天性免疫不全症・自己免疫性疾患・気管支喘息・アトピー性皮膚炎などの免疫アレルギー疾患、未熟児新生児疾患など。

診療、研究実績

一般的な診療についての実績

白血病・小児がんに対する化学療法、心臓カテーテル検査及び治療、各種神経疾患に対する薬物治療、低身長など分泌疾患に対するホルモン療法、先天性免疫不全症に対する抗体補充療法、自己免疫疾患・アレルギー疾患の加療、未熟児新生児医療など幅広い小児疾患に対応しています。



高度医療の取り組み・研究

①移植医療

難治性血液・悪性疾患、代謝異常症、先天性免疫不全症に対する造血幹細胞移植の実施、並びに肝芽腫・代謝異常症に対する肝臓移植の周術期管理を行っています。

②遺伝子診断

先天性免疫不全症や代謝異常症の遺伝子診断を行うと共に、様々な病気の原因や発症機構について研究し、新しい診断・治療法の確立を目指しています。

③再生医療

再生医療の臨床応用を目指し、ES・iPS細胞を用いた基礎的研究に取り組んでいます。



とっておきの皮膚科診療をめざして

炎症、腫瘍、自己免疫性疾患を含め、あらゆる皮膚疾患を対象として診療を行い、多数の専門外来で高度な医療を提供します。日帰り手術、悪性腫瘍に対するセンチネルリンパ節生検など、低侵襲医療にも積極的に取り組んでいます。

診療体制

外来は初診1名、再診3～5名が交代で担当。再診は各種専門外来で、初診での診断・治療後に専門外来担当医師が治療を引継ぎます。常に約20人が入院、指導医と専門修練医が共同で治療を担当するなど、最適な医療を実施します。



対象疾患

皮膚悪性/良性腫瘍、皮膚リンパ腫、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、皮膚そう痒症、乾癬、角化症、接触皮膚炎、光線過敏症、白斑、脱毛症、皮膚潰瘍、褥瘡、静脈瘤、自己免疫性水疱症、膠原病、皮膚細菌/真菌感染症、ウイルス感染症など。



診療、研究実績

一般的な診療についての実績

関連病院や地域の皮膚科医と連携、アトピー性皮膚炎の教育入院、悪性腫瘍の手術、化学療法まで幅広く対応。毎週行われる外来回診では全医師が集まって困難な症例を検討するなど、スタッフ全員によるチームでの診療を行っています。

高度医療の取り組み・研究

①皮膚悪性腫瘍の治療

ダーモスコピー、センチネルリンパ節生検、ケミカルピーリングを導入し、有効かつ低侵襲的治療法を選択して行っています。

②難治性円形脱毛症

一般的な治療に加えて、パルス療法、局所免疫療法、紫外線療法などを組み合わせ、病状にあわせた治療で効果を挙げています。

③より良い皮膚科医療を目指し、皮膚アレルギー、創傷治癒、角化症、脱毛症、腫瘍免疫、接触皮膚炎、痒み、光線過敏症に関する基礎的、臨床的研究を行っています。

